

## 第 38 回 CASCO 総会及び関連会合 報告書

報告者:(一財)日本規格協会 横田 洸 中川 梓

日時:2024 年 4 月 23-26 日

場所:カンパラ(ハイブリッド開催)

スケジュール:

CASCO technical work & related ISO initiatives	23 日 9:30-16:40
Plenary	24 日 9:00-17:15
Plenary	25 日 9:00-16:30
CASCO Workshop, Facilitating Trade: The Role of Conformity Assessment in the context of the AfCFTA	26 日 9:00-13:00

**2024年4月23日(火)**

**Fundamentals of and guidelines for conformity assessment schemes – Revision of ISO/IEC 17007 (2009), ISO/IEC ISO/IEC 17067 (2013) and development of the ISO/IEC TS 17035.s**

各 WG の進捗報告がされた。

●ISO/IEC 17007“Conformity assessment – Guidance for drafting normative documents suitable for use for conformity assessment”(WG64)

5月3日まで投票が実施されている。第1回目12月、第2回目2月に会議を開催し、第3回目7月に開催予定。それぞれの会議で検討された事項・改訂内容の紹介があった。

●ISO/IEC 17067“Conformity assessment – Requirements for bodies certifying products, processes and services”(WG65)

第3回目の会議が6月に開催される。WD1やWD2での変更点や議論点の紹介があった。

●ISO/IEC TS 17035“Conformity assessment – Guidelines for validation and verification programmes”(WG66)

ISO/IEC TR 17035からISO/IEC TSに変更という投票が実施され、変更が承認された。第1回目の会議が1月、第2回目の会議が6月に予定。規格の内容や構成について紹介。ISO/IEC 17029 箇条8の内容を補うような規格とする。また、ベストプラクティスや実例などを記載する内容とする。

**Revision of ISO/IEC 17024 (2012), General requirements for bodies operating certification of persons**

WGでの活動について、コンビーナから説明があった。WD1 ISO/IEC 17024に関するWGコンサルテーションが、2024年3月22日(8週間)まで開かれた。日本からはコメントを提出している。2024年5月28日～30日ジュネーブで開催される次回のWG30会議(ハイブリッド)で検討、議論される予定。WGであがっている問題としては、誰が試験を監視するのか? AIの技術を利用するのか? AIはhumanと言えるのか、などAIに関してのものが多くある。AIに注目するのではなく、AIをどのように活用するのかについて議論することが重要であるというコメントが参加者から寄せられた。

**Introduction to the ISO Online Standards Development (OSD) platform**

OSDについて紹介及びOSDを使用する上での利点について説明があった。一緒に一つのプラットフォームで複数人が編集したりコメントをしたりすることが可能。常に更新され最新のドキュメントで作業をすることができる、変更点が全て記録されるなどの利点がある。Preliminaryの段階からOSDは使用可能。文書のストラクチャーやフォーマットなどは気にする必要がないため、コンテンツに集中することができる。現時点でもOSDを使用しているプロジェクトがあり、フィードバックなどを求めて向上するようにしている。

**Revision of ISO/IEC 17020 (2012), Requirements for the operation of various types of bodies performing inspection**

2月に第3回目の会議を開催。995件のコメントがWDに対して寄せられ、コメント検討が実施された。コンビーナからは規格の内容(用語の説明やストラクチャー等)について簡単に説明があった。2024年5月15日～16日にかけて第4回目の会議を予定しており、CDを作成し、7月～8月に8週間のコンサルテーションを実施する予定。

## ISO Capacity Building Session on the Action Plan for Developing Countries 2026–2030.

### ●APDC2021–2025

アクションプラン(冊子)を作成した。キャパシティービルディングの内容としては、ニーズを調査したり、ワークショップを開催するなどが含まれる。調査結果(assessment survey)では適合性評価が最もプライオリティが高い分野だった。CASCO 関係者も数名がワークショップに参加したことがあった。

### ●APDC2026–2030

2025 までのアクションプランを確認し、将来(2026 年以降)のために何を継続・変更、削除すべきかなどを考える必要がある。2026 年～のアクションプランは 6、7 月にファーストドラフトが作成される。

以下の事項(戦略)について自由にコメントが求められた。

適合性評価活動に影響を与える将来のトレンドは？

→ニュージーランドではミネラルや農業が盛んで、サプライチェーンに対する適合性評価が重要。地域ごとにサプライチェーンでの適合性評価が異なる(フレッシュな果物を栽培する→売るまでの流れで何段階か検査を実施するが、ルールが地域ごとに異なる)。

→消費者やステークホルダーに適合性評価の要求事項などを知ってもらえるようにする。適合性評価の認知をあげる。

適合性評価に関与する認証機関は次の 5 年に何を必要とするか？

→アフリカでは試験を行う人の力量が十分ではないことがあり、5 年ではなく 10 年という長い目で適合性評価に関わる人の育成が必要。

我々はどのような異なることを実施する必要があるか？

→気候変動の問題に取り組む。

→発展途上国からの参加者が増えるように支援する必要がある。

→COP のような気候変動について議論する場を設ける。

## 2024年4月24日(水)

### 総会

#### ●議題1 Opening of the meeting and welcoming of delegates

CASCO 議長が開会の挨拶。

#### ●議題4 Appointment of the resolutions team

resolutions team のメンバーが確認された。

#### ●議題5 Report of the last meeting

前回の CASCO 総会の報告書が確認された。

#### ●議題6 Presentation ISO key initiatives and priorities

key initiatives 及び優先事項として下記の内容の紹介がされた。

- ISO ガバナンス見直しを行う。2年(2024~2025)を目標として理事会、TMB、TC が PDCs と協力する。また、理事会のダイバーシティ化。
- ISO ビジネスモデルの説明。トレンド(デジタルトランスフォーメーション(AIなど))に対応していく。
- Council workshop の開催、Council Task Force の設置の検討。
- ISO戦略カフェが開催予定。
- 規格がどこでも使える(SMART、OSD)。
- グローバルニーズを満たす(規格開発プロセスの向上(OSDの使用)、ISO Open Consultation(2024年からパイロットが実施される。新しい分野の規格の利点を紹介し、新しいエキスパートを呼びこむ)、持続可能性戦略パートナーシップの進捗報告(WBCSDとWRIがTC207に参加してISO 14064及びISO 14067の見直しをしている。))
- 全ての声を聴く(キャパシティービルディング活動、diversity&inclusion、ISOlutionの進化)。

#### ●議題7 CASCO's Chair report

今期の主な活動内容の紹介があった。内容は下記のとおり。

- メンターシッププログラム。
- 投票期間中の informative session の開催。
- 持続可能性、ESG への CASCO の貢献。
- CASCO の成果物が将来のニーズを満たすことを確実にする。

次に各 WG での活動内容について簡単に紹介があった。

- ISO/IEC 17020“Conformity assessment – Requirements for the operation of various types of bodies performing inspection”、ISO/IEC 17024“Conformity assessment – General requirements for bodies operating certification of persons”が改訂中である
- ISO/IEC 17067“Conformity assessment – Fundamentals of product certification and guidelines for product certification schemes”、ISO/IEC 17007“Conformity assessment – Guidance for drafting normative documents suitable for use for conformity assessment”がスコープ拡大され改訂される
- ISO 14019“Validation and verification of sustainability information”シリーズを TC207 との共同開発し

ている。

- ISO/IEC TS 17012“ Guidelines for the use of remote auditing methods in auditing management systems”の規格開発。
- ISO 理事会が2月に開催され CASCO の活動を紹介した。  
ISO理事会のガバナンスレビューについて、第2段階へ移行する。第1段階は理事会のダイバーシティと effectiveness(有効性)に焦点をあてた。第2段階は、CASCO、DEVCO、COPOLCOが組織のニーズに対処できているかを評価することに焦点を当てる。

●議題8 Validation and verification of sustainability information

昨年の決議のフォローアップが記載された箇所の確認がされた。

●議題10 Secretariat Report

2023年3月時点で CASCO には144メンバー(Pメンバー:93、Oメンバー:51)。6つのWGが活動中である。ISO/TS 23406“Nuclear sector – Requirements for bodies providing audit and certification of quality management systems for organizations supplying products and services important to nuclear safety (ITNS)”が発行されたためJWG62は解散。

2023年は4つの規格が発行された。

- ISO/TS 23406:2023“Nuclear sector – Requirements for bodies providing audit and certification of quality management systems for organizations supplying products and services important to nuclear safety (ITNS)”
- ISO/IEC 17043:2023“Conformity assessment – General requirements for the competence of proficiency testing providers”
- ISO/IEC TS 17021-15:2023“Conformity assessment requirements for bodies providing audit and certification of management systems Part 15: Competence requirements for auditing and certification of management systems for quality in healthcare organizations”
- ISO/TS 21030:2023“Educational organizations – Requirements for bodies providing audit and certification of educational organizations’ management systems”

SR投票案件は5件、CIB投票案件は7件あった。

その他、CASCO事務局が参加したワークショップなどの紹介もあった。

また、ISO/IEC 17065とISO/IEC 17067のSR投票について、関連の深い規格なのでSRのタイミングを調整するつもりであったが(2023年10月の17067のSR投票後に17065のSR投票を行う)、DINより17065改訂のNWIPが出たので、事実上17065の見直しが先になるとの説明があった。

●議題11 CASCO Roadmap

CASCO規格のSR計画を示した資料について説明。資料(N1576)について下記の指摘があった。

- ISO/IEC TS 17012はauditing SDCのセクションではなく、Management Systems certificationのセクションに移動する。
- ISO/IEC 17067:2013はProduct, services and process certificationのセクションではなく、CA Terminology, rules and common elementsのセクションに移動する。

●議題 12 IEC CAB report

IEC 戦略プランの紹介があった。

- Enabling a digital and all-electric society
- Fostering a sustainable world
- Leading on trust, inclusion and collaboration

●議題 13 CASCO and Environmental Social Governance (ESG)

<13.1. CASCO contribution to ISO Technical Management Board Coordination Committee on Environmental Social Governance (TMB CC ESG)>

ISO の内外の ESG(環境、社会、ガバナンス)活動を効果的に調整し、特に、外部組織に対する戦略的アプローチを定義し、ESG のための戦略と解決策を開発するために、ISO/TMB は 2022 年 9 月に ESG Coordination Committee (ESG CC)を設立した。ISO/TMB は 2024 年 3 月 8 日に開催された会合で、TMB ESG CC が提案した、ESG 原則を実施するための枠組みに関する IWA を承認した。2024 年末までの発行を目指し、IWA に関する作業に参加するように CASCO メンバーやリエゾンに呼びかけた。新しい consultive Group on ESG のノミネーションが開始される予定。

<13.2. Discussion – ISO/IEC 17029, ISO/IEC 14019 series and the IAF framework – Role and implications for CASCO>

ISO/TC207/SC2 と CASCO の JWG1 の共同議長が、JWG1 で現在開発中の持続可能性情報の妥当性確認と検証に関する一連の規格を総会にて紹介した。14019 シリーズのパート 1、2 及び 4 はドラフト作成中で CD→DIS の予定。およそ 60 名のエキスパートが参加している。3つの規格は 2025 年の発行予定。

それぞれのパートの概要の説明があった。

パート 1 は一般原則及び要求事項

パート 2 は verification(検証)のプロセスについて

パート 4 は v/v bodies の要求事項について

ISO/TC 207 で使用している用語と ISO 以外(例:ISSA 5000)で使用されている用語が異ならないようにする。IASB(国際監査・保証基準審議会)と IESBA(国際会計士倫理基準審議会)と JWG1 のリーダーが定期的なテクニカルミーティングを開催し情報交換をしている。また、IESBA Code 5:IESSA の規定案(新設されたパート 5)について説明があった。

13.2 のディスカッションは 4 月 25 日のアジェンダへ移動された。下記は 4 月 25 日のディスカッションにて議論された。

Why regulators and the market in general have not considered/used CASCO Toolbox in the first place?

What can we do to change this situation?

→CASCO がどのような活動をしているのか、どのような規格を開発しているのか、たくさんの人に知ってもらい、興味を持ってもらう必要がある。

→組織や機関とコラボレーションしていくことで、CASCO 規格も認知され現状が改善されるのではないか。

なお、ディスカッションで出た意見は CPCG、TMB ESG CC でも議論される。

●議題 14 Discussion session SNV proposal – requirements for the use of technical systems in conformity assessment – competence in focus

スイス規格協会 (SNV) が提案したセッションが実施された。内容は下記のとおり。

- Setting the scene and stating the case – Introduction of SNV' s contribution
- Stating the case – Use case of the calibration robot
- Digitalization – Impact on Quality Infrastructure and its concepts
- Q&A and Poll
- Summarize the key outcomes and way forward

Competence の定義等について議論された。

キャリブレーションはこれまで人の手で行われてきたが、これからはロボットによって行われる。自動で、リモートで、AI によって。しかし、Competence の定義は人に向けられたものである。将来に向けてこの定義はどうか？テクノロジー(ロボット)に向けてこの定義は当てはまるのか？

→スイス規格協会 (SNV) は当てはまると考える。定義のとおり、能力があり、知識を得ることができ、技術に適応でき、立てた目標(結果)に到達することができる。

以下参加者からの意見

- キャリブレーションはロボットでも可能かもしれないが認定・認証は全てテクノロジーに任せるのは難しいのではないかと。
- Competence of people の定義については現時点では変更する必要がない。また、CAB についても現時点で影響はない。CASCO ツールボックスは Quality Infrastructure に対して有効である。
- 現在は紙を必要とする作業も全てテクノロジーに任せる未来がくると考える。

議論の結果、Competence の定義は現在の内容で十分かという質問についてはほぼ半々で意見が分かれた。

**2024 年 4 月 25 日(木)**

●議題 15 Chair' s Policy and Coordination Group (CPCG) – Update report on main discussion items and decisions of meetings in 2023

下記の事項について報告があった。

- ISO 19011 の改訂。
- ISO/IEC 17021 シリーズのフォーム。

パートの増殖について参加者から懸念の声があったが、CASCO 事務局がフォームを作成した。今後はシリーズがむやみに増殖しないようにワークショップなどで注意喚起・増殖問題周知していく必要がある。

パートの中には使用されていない規格もあるのではないかと参加者から発言があったが、事務局からそのための SR 投票がある、との回答。

- CASCO WG meeting type 12/2023 について。
- 冊子の開発。
- TG on ESG。
- ISO annual meeting。
- Road map。

ISO/IEC TS 17023:2013“Conformity assessment – Guidelines for determining the duration of management system certification audits”は SR 投票の結果確認だったが、改訂の投票も多かったため、今後議論され、アクションプランが決定される。

・メンタープログラム

メンターによって構成された TG を設置し、プロセス等の向上、アップデートを実施する。

●議題 16 Strategic Alliance and Regulatory Group (STAR) – Update report on main discussion items and decisions of meetings in 2023

STAR から最新の報告があった。

– Global plastic treaty。

ISO はオブザーバの位置である。STAR が CASCO 事務局へ適合性評価の観点からボランティアでヘルプした。結果 ISO としても活動に貢献することができた。

– Digitalization。

Digitalization に関するワークショップを 2 回開催した。

●議題17 Technical Interface Group (TIG) – Update report on main items of meetings in 2023

TIG から最新の報告があった。

●議題 18 IAF-ILAC-ISO Joint Strategy Group (JSG) – Update report on main discussion items and decisions of meeting in 2023

JSG から最新の報告があった。

●議題 19 Breakout session IEC/ISO SMART programme – latest developments and plan for 2024

SMART チームより報告があった。

IEC/ISO の規格類の大半は、人間をユーザーとして想定しているため、人間が読むことができるものしかない。機械に適用可能で読取り可能、かつ転送可能な規格 (SMART 規格) を作成し、ユーザーを機械 (コンピュータ) にまで進化させる。IEC/ISO SMART プログラムは、IEC および ISO の製品やサービスが、市場や社会にとって最も魅力的で適切なものであり続けることを確実にすることを目的としている。ISO/IEC が主導すべき事項として、規格使用者への SMART の利点説明、SMART を活用した新たなビジネスモデルの構築がある。

また、SMART を利用したデモサイトの紹介があった。サイト内で、規格の検索 (番号や用語の入力で検索可能)、規格の内容を確認 (箇条番号のみをタグ検索して参照可能。箇条 6、8 のみ選択し、その内容を確認するなど)、検索した規格に関連する規格が下位に表示され便利。各規格だけのスコープを同時に表示することも可能。

2024 年に焦点をあてる内容として下記の事項が挙げられた。

- OSD に SMART の技術を統合
- APIs (for machine)
- wizard for people

参加者から次の質問があった。

適合性評価にデモサイトは使用できるのか？

→認証機関によってそれぞれがバナンスもあるだろうから、現時点ではわからない。

サブスクライブにどれくらいかかるのか？

→MBでサブスクライブしてもらうのか、個人個人でサブスクライブしてもらうのか現時点では決まっていな  
いため、決まっていない。

専門的なIECの用語も検索することは可能か？

→現時点では限りがあるが、できるだけたくさん用語(terminology)をデモサイトで検索できるようにする。

ISO、IECの規格以外にも関連する規格をサイトに導入する可能性はあるのか？ライセンスを取得する予  
定はあるか？

→デモサイトは作られたばかりなのでこれから調整が入り、メンバーとも相談していく必要があると思うが、  
将来的には国際的なツールとして規格の範囲を広げていくことができればと考える。

●議題 20 Discussion session Mentoring programme for future convenors in CASCO – what makes it  
successful?

CASCO Convenor Mentoring プログラムは CASCO の WG が実施する CASCO 成果物の開発・改訂の期間  
中、エキスパート(メンティー)とコンビーナ(メンター)をペアにし、メンターは、メンティーに助言と指導を行う。  
目的は、次世代のコンビーナを育成すること。プログラムは現在、WG31 (ISO/IEC 17020 改訂)、WG61  
(ISO/IEC TS 17012 開発)など様々な WG にて実施されている。

プログラムについて次のコメント・感想が寄せられた。

- このプログラムでメンターとメンティーの関係構築ができるのでよいと考える。また、対面やハイブリッド  
など様々な会議形式を経験することはよいと考える。対面、オンラインそれぞれの開催方法で必要とさ  
れる能力が異なるため。
- メンターと相談をして会議設定をしたり、プロジェクトがタイムライン通りに進むように調整したりなど学  
ぶことができた。参加しているWGではエキスパートでもあり、メンティーでもあったので、バランスをとる  
のに努めた。メンティーとして、他のエキスパートが問題なく会議に参加できているかなど気にかけてり  
もした。(メンティー1 感想:WG64 参加)
- コロナ禍で開発は全てオンラインで終えた。今では当たり前になっている全てリモートで完結することも  
最初は慣れるまで大変だった。(メンティー2 感想:WG57 参加)

また、次のような質問も寄せられた。

プログラムに興味がある人へのアドバイスは？

→ISO/IEC Directives パート 1 及び 2 を理解し、ISOツールを活用できる能力が必要だと考える。

このプログラムはどのような点で成功といえるか？

→メンティーはプログラムで学んだことはNMCでも活かしたりできている。メンターはコンビーナとして、リー  
ダーシップも学ぶことができたと感じる。

このプログラムはどの MB も対象としているのか？

→はい。先進国、発展途上国関係なく全ての MB を対象としている。

●議題 21 ISO Capacity Building report – conformity assessment related activities

キャパシティービルディングに関しての報告があった。

- Assessment survey の結果の紹介。
- VILT (ISO Digital Learning Platform) の紹介。

・Eラーニングコースの開設。

コース 1: 国際規格開発

コース 2: 国際規格作成ルール(箇条 33 含む)

(2024 年 10 月 launch)

コース 3: ISO technical work を学ぶ

(2024 年 12 月 launch)

●議題 24 Date of next meeting

2025 年総会はドイツ(ベルリン)で 4 月最終週に開催が決定。2026 年総会はサウジアラビアの予定。

●議題 26 Closure of meeting

議長挨拶。メンバー各位、STAR/TIG 主査、WG 主査、リエゾン団体に深謝。

#### 4月26日(金)

##### CASCO Workshop, Facilitating Trade: The Role of Conformity Assessment in the context of the AfCFTA.

アフリカ大陸自由貿易圏(African Continental Free Trade Area: AfCFTA)における適合性評価の役割についてのワークショップが開催された。

AfCFTAの構想は、アフリカの域内で関税を撤廃し、貿易ルールを共通化することで、アフリカの経済発展と世界における競争力強化につなげることを目指すものである。AfCFTA(アフリカ自由貿易圏)協定は、アフリカの域内で関税を撤廃し、貿易ルールを共通化することで、アフリカの経済発展と世界における競争力強化につなげることを目指す。

AfCFTA協定は、2021年1月から運用開始となったが、実際に関税が撤廃された状態で貿易が行われる状況にはまだ至っていない。プロトコル上運用となっただけで、撤廃を進めるための具体的なルールはこれから決める状態である。

AfCFTA Annex6 on TBTに適合性評価に関する記述がある。適合性評価によって例えば、信頼性が上がり、貿易のバリアを減らし、市場へのサクセスがしやすくなるというような利点がある。

発表者よりアフリカでの市場での適合性評価実施の困難について、下記のものが挙げられた。

- 十分な適合性評価のインフラストラクチャーの欠落。
- 適合性評価実施のコストがかかる。
- 国家規格・地域規格が存在し異なる規格を使用している。

上記の問題についてディスカッションが行われ、下記の意見が出た。

- 適合性評価のコストを減らすことが重要である。
- 認証機関がアフリカ内にあるが、それぞれ独自のポリシーを持っており組織へ教育(適合性評価について)をする機会がない。認証機関自体が育っていないため十分な適合性評価を実施することができず、貿易にも影響が出ている。認証機関の標準化ができていない。
- 中小企業とコラボすることで海外の市場に輸出できないものがないようにすることができるのではないかと。
- 規格や規制の関係を鑑みる必要がある。
- 国家レベル(アフリカ55の国・地域)で協力し問題を解決する必要がある。
- 言語の壁(ISO規格に出てくる用語も各国によっては訳し方や概念に若干違いがある場合もあるかもしれない)が問題だと考えられる。

以上